

図書館と地元書店との地域連携

瀬戸市立図書館(愛知県瀬戸市)

URL: <http://www.lib.seto.aichi.jp/>

テーマ

図書館と書店等が連携した経営・運営

取組概要

図書館の本を地元書店から購入し、本の装備を福祉施設(就労事業所)へ依頼
商店街イベントに読み聞かせボランティア等の紹介、派遣

取組詳細

活字離れで書店が激変し、社会問題になっているが、地域の読書文化を支えていくには図書館のみならず街の書店が必要である。街全体の読書文化を盛り上げていくため書店と図書館が連携して読書活動を進める活動を行っている。

- 東京の業者が装備した本を地元の瀬戸市立図書館用図書納入組合(以下、書店納入組合という)を通して購入していたものを直接、地元の書店納入組合から購入することとした。
装備は市内福祉施設(就労事業所)と書店が連携して行う「幕別モデル」の導入



・作業を分担し、それぞれができることを行っています。

- 商店街のイベントに、瀬戸市立図書館と友好関係のあるイラストレーターを紹介し、ワークショップを開催したり、読み聞かせのイベントに図書館のボランティアを派遣したりしている。

基本データ
(数値は令和5年現在)

住所
愛知県瀬戸市東松山町1-2
人口 12.7万人
(図書館が所在する市町村)
職員数(うち有資格者数)
6人(4人)
(委託スタッフ35人(25人))
蔵書数 約 34万冊

取組の成果と今後

【成果】東京の業者からの直接納入は、電算システムとも連動して、本の発注から受け入れまで一貫通貫のシステムであったため、人員不足を補うことが出来たが、司書の選書能力やレファレンスに必要な教養・知識・技術を身に付ける機会を奪っていた。地元の書店納入組合から本を一冊一冊確認して発注、受け入れをすることにより、司書としてのスキルアップも出来、魅力ある蔵書構成にも繋がった。

また、書店納入組合との連携により情報交換が密となり、地元書店と図書館双方の活性化を図ることが出来、書店の存続にも貢献できている。

【今後】地元書店がますます活気づき、図書館とともに地域の読書文化を発展させていき、さらには、幕別モデルのように障害者雇用の拡大、税金の域内循環など新たな地域型の経済効果を生み出す政策を確立したい。